

# 浜 私 幼

横浜市幼稚園協会 協会報 No273

公益社団法人 横浜市幼稚園協会 発行  
〒221-0055  
横浜市神奈川区大野町 1-25  
横浜ポートサイドプレイス アネックス 5F  
電話 045 (534) 8708  
<http://www.kids-yokohama.or.jp>  
編集 横浜市幼稚園協会広報部  
発行者 木元 茂  
印刷所 株式会社横濱大氣堂

## 幼児教育の無償化に向けて

公益社団法人横浜市幼稚園協会 会長 木元 茂



▲木元 茂 会長

新しい年度も始まり、保護者の皆様もお子様も新しい幼稚園、新しい先生、新しいお友達と、緊張しながらも新たな出会いがたくさんあった数カ月だったのではないのでしょうか。横浜市幼稚園協会におきましても、平成30年度は役員の改選の時期でもあり、新しいチームで協会の運営をスタートしました。また、幼稚園や認定こども園の教育・保育の基本方針が定められている「幼稚園教育要領」等が、この30年度から改訂されましたので、各幼稚園の先生方も新たな保育にチャレンジしているのではないのでしょうか。

さて、横浜市幼稚園協会と父母の会連合会は、横浜の子どもの幸せのために、手を携えて活動をしています。子どもたちが充実した教育が受けられるように、すべての子どもたちにとっての最善の利益を考えて、横浜市長、横浜市会、横浜市役所の行政担当官へ様々な機会をとらえて要望活動を行っています。以前は、私立幼稚園就園奨励補助金の充実により保護者の皆様の保育料の負担軽減を訴えて、署名活動を行ったこともあります。また、例年6月頃には市会議員の皆さんに政策要望書を提出し、意見交換を行っています。市民であり有権者である保護者の皆様の切実な要望には各党派の先生方もしっかり答えようとしてくれますし、数年かけて実現していただいた案件も多くあります。これからも、皆様のご要望をお聞かせいただき、ともに活動をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお祈りします。

### —幼児教育無償化について—

政府が検討を進めている幼児教育・保育の無償化が、2019年秋の消費税のUPに伴い、いよいよ始

まりそうだと、新聞各社が一齐に記事を掲載しました。保護者の皆様も大きな期待を寄せていらっしゃると思います。今回の無償化は、3～5歳の幼稚園・保育園・認定こども園に通うお子さんの、通常の保育時間内の無償化と、0～2歳については住民税非課税世帯を無償化する方向で動いているようです。ところで、私たち幼稚園協会のメンバーが気になっていたのは、保育園が無償になると、幼稚園の預かり保育はどうなるかということでした。現在のところ、幼稚園の預かり保育も保育要件を満たせば対象になる方向で進んでいるようですが、どの程度の軽減になるのかはまだ見えてきません。また、無償化とは言いつつも想定される金額は、全国の保育料の平均額が採用される可能性が高いので、横浜市内の各園の現在の保育料との差がある場合に、どのような形で保護者負担額を納めていただくかルールを決めたり、施設型給付と私学助成（就園奨励補助金）の園それぞれでの事務手続き方法など、まだ決まっていないことがたくさんあります。今後具体的な情報が入り次第ご案内させていただきます。

### —お願い—

平成27年度から始まった子ども子育て支援新制度は、第1期（平成27年度～平成31年度）がいよいよ来年度で終了します。そして、平成32年度から第2期が始まる予定で、現在横浜市の子ども子育て会議等で議論されています。今後議論を進めていく中で、市民の皆さんの子育てニーズを把握するために、平成30年度中に市民アンケートが実施される予定です。就学前のお子さんと就学児童のいらっしゃるご家庭に向けて、3人に1人の割合でアンケートのご協力をいただく予定です。項目が多く回答するのも大変かもしれませんが、このアンケートの結果を基に次の5年間の子ども子育て施策の内容や予算規模を検討していきますので、ぜひともご協力くださいますようお願い申し上げます。

# 楽しい生活の中で 脳は育つ

臨床心理士／公益社団法人横浜市幼稚園協会 子育て教育相談員 鈴木 由美子

もうすぐ夏休み

家庭ならではの教育力が発揮される時ですね。教育？お勉強？いえいえ。楽しい生活そのものが脳を育ててくれるのです。

たとえば、すこやかな発達に重要といわれている生活リズムを、早寝早起きに整えてみることで、夜明けが早いこの時期には取り組みやすいでしょう。早く起きた時間を何に使いましょうか？パパと一緒に散歩？朝ご飯を一緒に作る？いつもは「早くしなさい！」と言われてやっていることも、次に楽しいことがあれば、言われなくてもさっさとできるかもしれません。

子どもがいるといつものように能率よく家事は進みません。でも、それもチャンスととらえませんか。一緒に楽しんですることで子どもも遊び感覚で家事を身につけていくことができるのではないのでしょうか。コツは「楽しく」「ポジティブ」にです。

「やる気スイッチオン！」「おっかたづけ〜♪」などと楽しみながら一緒に片付ける、子どもが片付けやすい方法を一緒に考える、などで叱らずに片付けられるかもしれません。

幼稚園の頃の子どもたちは、お母さんお父さんと一緒に同じことをすることがうれしい時代です。何でも真似してみたい、お料理だってやってみたいでしょう。火や包丁なども、危険だから触らせないのではなく、安全な使い方を教えていくことが、大切なのではないのでしょうか。自分で作ったお料理はいつもよりよく食べるかもしれませんね。

洗濯物を干したり畳んだりも、お手伝いできるでしょう。指先の力や手のひらの力も育っていきます。水遊びの好きなお子さんなら、お風呂掃除や食器洗い、草花の世話も楽しいでしょう。一緒にやりながら、いつかは子どもの担当にしていけるといいですね。「自分でできる」「役に立てる」という気持ちが子どもの「自信」を育てていきます。

それに家事は「手」をたくさん使いますね。手を使うことが脳を育てます。脳の中で「手」の占める割合はとても大きなものだそうです。賢い子にしたいと思うなら、今、しっかり手を使って、器用な手に育てておきましょう。外科のお医者さんが不器用では困りますね。学校で知識を詰め込む前に、「やる気」と「器用な手」を育てておくことが大切です。

「やる気」は認めてもらうことで育っていきます。うまくできなかったとしてもそのプロセスと一緒に

楽しむ、ここまでできるようになったね、という道のりをこまめに認めてもらうことで、もっともっとと育っていきます。

脳は楽しいとよく働くのです。楽しいことならほとんど覚えていきますが、無理やり詰め込まれたことはすぐ忘れます。学生時代の一夜漬けの試験勉強、まだ覚えていますか？安心して楽しんでいるときに一番脳が活性化するのですね。

一方で「暴力や暴言で脳は変形する」(注1)ことがわかってきています。うまく育たなくなるのですね。しつけのためと思って言う「こんなこともできないの？」「だめな子ねえ」なども、子どもの心を委縮させてしまいます。言うほうも後味が悪いですよ。ちょっと頑張って、否定文をやめてみませんか？否定文の裏には必ず「こうしてほしい」「こうなってほしい」という願いがあります。その願いをシンプルに優しい声で伝えてみませんか。「こうするとうまくできると思うよ」「あなたのことが大好きよ」子どもを思う気持ちを素直に表現してみませんか。この頃の子どもたちは自分の親が世界一と信じている素敵な時代です。ぜひ、笑顔と言葉で愛情をたっぷり伝えてあげてください。安心して脳もすくすくと育っていくでしょう。一緒にいろいろなことができる今を、どうぞ楽しんでくださいね。期間限定です。

(注1：朝日新聞 be 2018年5月26日

小児神経科医 友田 明美)

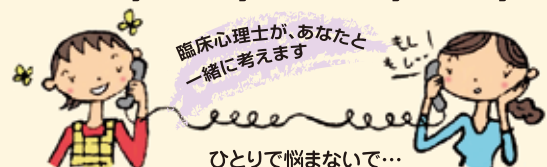
## 子育て教育相談室

【相談日】

毎週火曜日・金曜日(年末年始、祝祭日を除く)

【受付時間】

10時～12時 13時～15時



相談専用ダイヤル

045-534-8837

公益社団法人 横浜市幼稚園協会  
<http://www.kids-yokohama.or.jp>  
 TEL 045-534-8708

# 横浜市幼稚園新規採用教員研修会

5月9日(水) ～南公会堂にて～

横浜市子ども青少年局  
保育・教育人材課 永野 理英子

5月9日(水)、「横浜市幼稚園新規採用教員研修会」が開催され、新規採用された幼稚園や認定こども園の先生方が242名参加しました。

第1部は、採用2年目の先輩教諭3名に体験談を話していただきました。3名からは、保護者の言葉を聞いて、子どもをしっかりと見ていなかった自分に気づき、子どもと向き合い関わることで、子どもが成長し、自分自身も成長できたという体験などが語られました。また、自分自身が楽しむことの大切さ、先輩教諭の子どもへの関わり方からの学びや、自分を支えてくれた周囲の方への感謝なども話していただきました。新規採用の皆さんへのあたたかなメッセージと励ましの思いが伝わったのではないかと思います。



自分の園には、2年目の先輩が1人しかいなくてあまりお話を聞く機会もなかったので、つい最近まで1年目だった自分と同じだった先輩の失敗や改善の仕方や、気持ちを開けて、自分も「1年目らしい保育」を自分なりに頑張っているように強く思うことができました。完璧には全然できなくても、1年目らしくていいのだと思えました。

第2部は、東京家政大学こども学部子ども支援学科教授 岸井慶子先生のご講演でした。

岸井先生からは初めに、保育は子どもの成長に関わる価値ある仕事であることや、苦労はあるけれど、必ず良いことがあるという励ましの言葉をいただきました。

また、子どもの写真を見ながら、子どもの姿から子どもの気持ちを理解することの大切さや難しさ、先生の価値付けによって「自分がやったんだ」と自信を高めた子どもの様子を知ることができました。先生が子どもをどのような視点で見るとかによって、子どもの見え方が違うので、意識してみること、子どもの心に自分の心がいかに動くかが大事、といったお話をいただきました。



幼児教育は、「努力すれば報われる」仕事であり、「人間として成長できる」場所であることが分かった。子どもを一番に考える事の大切さ、子どもをどうやって見ていくか等を改めて考えることができました。

8月2日、3日にも、新規採用幼稚園教諭対象の実技研修などが行われる予定です。

## お知らせ

～保護者と共に～

「育ちと学びをつなぐ」幼保小連携フォーラム  
平成30年12月15日(土)  
鶴見区民文化センター サルビアホール

- ①幼児教育・幼保小連携、アプローチ・スタートカリキュラムの重要性を子どもの姿で発信
- ②幼保小連携推進地区の地域に応じた多様な取組みをポスターセッションで発信
- ③國學院大學教授 田村学先生のご講演

対象者：幼稚園・保育園・認定こども園・小学校等の教育・保育関係者、保護者  
申し込み方法：横浜市子ども青少年局ホームページに後日掲載します

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kodomo/youji/>



# 平成30年度 横浜市幼稚園大会開催



▲平成30年度 横浜市幼稚園大会の様子

平成30年度横浜市幼稚園大会が6月20日（水）に横浜市文化体育館で、横浜市副市長、横浜市会議長、市会各会派団長、行政関係者、養成校の代表など多数のご来賓の皆さま方のご臨席のもと開催された。

初めに、羽田哲副会長が壇上にて開会を宣言し、続いて木元茂会長が挨拶に立ち、横浜市の幼稚園、認定こども園に長きに亘って子どもたちの育成にご尽力頂いた受賞者に感謝を述べた。また、新聞などの報道で現実味を帯びてきた幼児教育・保育の無償化や2歳児保育についても触れ、今年度、5園分の予算を立ててくださった横浜市と協会が協議し、2歳児にふさわしい環境設備と保育内容を実施できる園を募集し、実現に向けて動き始めている。将来、待機児童の問題が解消された後も、2歳児保育が横浜の子どものためになるという実績と4年保育という流れを作っていくために可能な園は積極的に取り組んで頂きたいと呼びかけ

た。ジリリさおり父母の会連合会会長からも永年勤続の先生方への感謝の言葉とともに今年度の父母の会活動の紹介がなされた。

この後、教職員の永年勤続表彰が行われ、来賓者や多数の幼稚園関係者、保護者、園児の見守る中、勤続20年、15年、10年、5年の順に登壇し、木元茂会長から各代表者に表彰状と記念品が贈られた。続いて、勤続40年、35年、30年、25年の節目を迎えた教職員の方々の表彰が行われ、それぞれの代表者に表彰状と記念品が贈られた。今年は昨年より82名増えて総勢445名の教職員が長年幼児教育に貢献した功績をたたえられ表彰された。

さらに、勤続20年、15年の教職員に対しては横浜市長表彰が行われ、荒木田百合横浜市副市長より代表者に表彰状と記念品の授与とともに「日頃より横浜の子どもたちの教育に熱心に取り組んでくださりあり



▲木元茂会長挨拶



▲ジリリさおり父母の会連合会会長挨拶



▲荒井多恵子 父母の会副会長による大会宣言



▲荒木田百合横浜市副市長より祝辞



▲松本研横浜市会議長より祝辞



▲大野朝代先生より謝辞

# 445 名が永年勤続表彰され大会宣言も採択された

がとうございます。」と感謝の言葉を頂いた。続いて横浜市会議長からもお祝いの言葉を頂いた。

荒井多恵子父母の会副会長より大会宣言が読み上げられ、満場一致で大会宣言が採択され、後日、横浜市及び横浜市議会に届けられることになった。

最後に永年勤続表彰を受けた教職員を代表して大野朗代先生（あざみ野白ゆり幼稚園）が謝辞を述べた。

以上で式典はすべて終了し、参加者全員で幼稚園讃歌を斉唱した後、渡邊英則副会長が閉会の辞を述べて、本年度の横浜市幼稚園大会は閉幕した。



## □H30 年度 横浜市幼稚園大会 表彰者人数

勤続年数	人数
5 年	222 名
10 年	97 名
15 年	52 名
20 年	32 名
25 年	24 名
30 年	10 名
35 年	5 名
40 年	3 名

## 平成 30 年度横浜市幼稚園大会 大会宣言 H30. 6. 20

私たち横浜市幼稚園協会加盟園の教職員と父母の会連合会の保護者 10 万余名は、『はばたけ みらいへ 横浜の子どもたち』のテーマのもとに、平成 30 年度横浜市幼稚園大会を開催いたします。

私たちは、横浜の子どもたちが心身ともに健やかに成長するために、家庭教育の向上、安全な社会の構築を願っています。さらに、幼児教育の振興を図ると共に、お互いに手を携え生きる力を育むため、最善の生活環境を整えるべく努力し続けることを宣言します。

- 一、人としての教育の原点は家庭にあることを常に意識し、家族が協力し合って絆を深め、家庭が子どもにとって最も安心できる場であるよう努めます。
- 一、地域社会に参加することにより、人々との輪をひろげ、互いに関心を持ってより安全な社会を目指し、子育てしやすい環境作りに努めます。
- 一、心豊かな子どもを育むため、私立幼稚園・認定こども園の教育を通して「生命（いのち）の尊さ」「人と人との絆」「思いやりの心」を親子で学びあい、成長していくことに努めます。
- 一、現在の子どもの健やかな成長が、豊かな実りある未来を作る原動力になるとの確信のもと、横浜市内全ての私立幼稚園・認定こども園に子どもを通わせている保護者の代表として、上記のことを実現するために私立幼稚園就園奨励補助金制度と共に新制度における給付金にもご配慮いただき、どの子どもも十分な恩恵を受けることができることを切に願い、市長・市議会及び行政当局に訴え働きかけます。

## 幼稚園大会とは

この横浜の「幼稚園大会」は、昭和 36 年度の第 1 回開催から優に半世紀を超える歴史を持っている伝統ある行事である。当初は「先生の日大会」という名称であった。当時はまだ物資のない頃で、先生たちは工夫しながら教材作りに励み、保育の充実をはかっていた。そうした先生たちの努力をたたえ、またこれに感謝し、さらに励ますことを目的として、「先生の日大会」は始まった。やがて保護者の方にもご参加いただき、名称も「幼稚園大会」に改めた。会場も横浜文化体育館とし、教職員・保護者三千名が参加する、名実ともに横浜の幼稚園にふさわしい大会となった。「幼児期における教育の重要性を広く市当局や市民に訴えること」も趣旨の中に盛り込まれた。市長表彰も行われるようになった。これは、幼児の成長、発達に欠くことのできない集団教育を、横浜市はすべて私立幼稚園の教育に委ねていることから始められた。

## 幼稚園の役割

現在、横浜に限らず、子育てにおける幼稚園の果たす役割は非常に大きい。横浜型の預かり保育は朝 7 時半から夕方 6 時半まで子どもたちを預かり、働く保護者のサポートしている。その数は協会加盟園の 68% を占める 174 園である。また地域の子育て拠点として、相談相手のいない若いお母さんの悩みや疑問に答えたり、子育てのちょっとしたアドバイスをしたり、ノウハウを伝えたりしている。園庭の開放や学童保育の方面までカバーする場合もある。今やますます難しくなっている子育ての諸々の問題に正面から向き合っているのが幼稚園だと言える。

地域に密着し、それぞれの環境の中でよりよい子育ての道を模索する日々が現在も続いている。

# 父母の会の組織と活動

## 1年間を振り返って学んだこと

平成 29 年度 横浜市幼稚園協会父母の会連合会  
会長 鈴木 繁美

昨年 5 月、ご縁があり横浜市幼稚園協会父母の会連合会の会長になり早一年、多くの事を学び、感じ、とても充実した一年を過ごすことが出来ました。




父母の会連合会は、幼稚園協会と連携をとり幼稚園と地域社会の橋渡し役となる活動をしております。6 月、横浜市会の各会派を訪問し、私立幼稚園の就園奨励補助金制度の堅持と拡充のお願いや、所得に関わらず全ての子どもたちへの医療費免除など、保護者の様々な生の声を届けるべく陳情活動を行いました。この活動では、教育費の無償化や中学校の学校給食の実現など、近い将来の実現に向けて、次の世代へ引継ぎ、

訴え続けております。

また、ザンビア共和国へ不要になった子どもの靴を贈る活動に賛同し、より多くの方にこの活動が浸透するようポスターを作成し広報活動を行っております。秋の父母セミナーでは、各分野で活躍されている方を講師にお招きし保護者の皆様と多くの情報と有意義な時間を共有するお手伝いをしました。

この一年で学んだこと。それは、変えたいこと望むことがあるのならば声を挙げて行動を起こすということ。これからも、この気持ちを持ち続け、子どもの学校生活で何かしらの役に立っていきたいと思っております。皆様には、今後とも子供たちの明るい未来のためにご理解ご協力を賜りますことをお願い申し上げますとともに、ぜひとも父母の会の活動に積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

## 平成 29 年度父母の会事業報告

5 / 16	◆ 第 1 回 委員会		▲ 第 1 回 委員会
5 / 24	◆ 「使用済み子ども靴のアフリカ・ザンビア共和国への寄贈活動」 ポスター作成打ち合わせ		
6 / 5	◆ 父母の会 5 役 打ち合わせ		
6 / 8	◆ 自由民主党へ就園奨励補助金制度等の堅持と拡充のお願い		▲ 陳情活動
6 / 16	◆ 公明党へ就園奨励補助金制度等の堅持と拡充のお願い		
6 / 20	◆ 民進党へ就園奨励補助金制度等の堅持と拡充のお願い		
6 / 29	◆ 幼稚園大会 (横浜文化体育館) 参加人数 教職員・保護者 2,367 名		◀ 幼稚園大会 会長挨拶
7 / 6	◆ 政令市私立幼稚園団体協議会 仙台大会参加		
7 / 7			
9 / 12	◆ 父母セミナー 横浜市西公会堂 参加人数 347 名 「マンガを描きながら子育てトークー育つ喜び・育てる喜びー」 講師 高野 優 先生		▲ 父母セミナー
9 / 25	◆ PTA 全国大会 (ホテルニューオータニ) 横浜協会より 52 名が参加		▲ 高野先生の講演
11 / 14	◆ 常任委員会の開催		
11 / 21	◆ 県連父母の会連合会研修大会 (神奈川県青少年センター) 横浜協会より 250 名が参加 「目標達成～夢に対する行動の明確化と思考力」 講師 武田 美保 氏		
1 / 22	◆ 「使用済み子ども靴のアフリカ・ザンビア共和国への寄贈活動」チラシ作成打ち合わせ		
1 / 24	◆ 新年意見交換会 (ロイヤルホールヨコハマ) 参加人数 272 名 (父母の会より 6 名) 会員、父母の会、市長、国会議員、県・市会議員、市行政関係者等		● 新年意見交換会
2 / 20	◆ 会計監査		
3 / 13	◆ 第 2 回 委員会		

## 平成 30 年度 横浜市幼稚園父母の会連合会 役員紹介



監 事                                      会 計  
 横浜学院幼稚園                      上星川幼稚園  
 澤村 珠加                              小島 恵美子

副会長                                      会 長                                      副会長  
 潮田幼稚園                              樽町白梅幼稚園                      光明幼稚園  
 荒井 多恵子                              ジリリ さおり                              児玉 友絵



▲ザンビアの子どもたちへ支援のためのポスター

### 第26回 父母セミナーのお知らせ

日時／平成 30 年 9 月 14 日 (金)  
午前 10 時 20 分～12 時 10 分 (受付 10 時～)

会場／鶴見公会堂  
〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町 2-1 フーガ16・7階

テーマ／「戦わないコミュニケーション」  
～コントロールを手放し、イライラとうまく付き合うには?～

講師：山崎 洋実 先生

講師紹介：旅行代理店、大手英会話学校勤務時代を通して接客 & 人材育成の楽しさを知る。結婚退職後コーチングに出会い、これまでやってきた事がコーチングだったことを知り体系的に学ぶ。その後妊娠出産、3年間の専業主婦生活を経て、身近なママ友達向けに講座をスタートした。

ママの特徴に合わせ、豊富な事例を用いて体系的に伝える講座が、ママ達の間で『目からウロコ』『子育てが楽しくなる』『参加しただけで元気になれる』と評判に。クチコミとリピーターで活動が広がり、瞬間に首都圏から関東、全国へと飛び火。

日本で唯一の“ママ達の元氣と輝きを引き出すコーチング講師”として、多くのママから「ひろっしゅコーチ」という愛称で慕われている。

(各園にお申込ください)

### “絵本の散歩道”

横浜市幼稚園協会のホームページに、“絵本の散歩道”というコーナーがあります。ここでは、現場の先生が選んだ絵本を紹介しています。実際に子どもたちと絵本を楽しんでいる様子などを交え絵本を紹介しております。お子さんとの絵本選びの参考にさせていただけたらと思っています。ぜひご覧ください。



横浜市幼稚園協会

# 第1回 幼稚園・認定こども園就職フェアの開催

経営管理部長 奈良 昌人



横浜市幼稚園協会は、幼稚園教諭と保育士を目指す養成校の学生に、幼稚園協会加盟園を広く知っていただくと共に、幼稚園・認定こども園への興味をもっていただくよう6月9日（土）午前10時から午後2時まで「第1回幼稚園・認定こども園就職フェア」を開催いたしました。

今回は、8月4日（土）にそごう横浜店9階の新都市ホールで行われる第2回就職フェアを周知し、つなげられるようにとの目的でかながわようちえん会館で行われました。会場に市内18支部のブースを設け、パネルに各支部の案内、各園の情報などを貼り、支部の代表者2～3人が丁寧に準備をして学生を待ちました。当日は梅雨の合間の真夏のような暑さにもかかわらず、10時になる前から開場を待つ熱心な学生が来られたため、10分前倒しで開場しました。エレベーターが着く度に多くの学生が来場し、受付後、ネームカードを下げ会場に入ります。ほどなく各支部の椅子は満席となり、支部の椅子が空くの待つ学生で通路はいっぱいになりました。

10時15分からは、イラストレーターでNHK教育TV「うたってゴー！」におえかきうたのおねえさんとして出演し、幼児のリズムダンスの振付や遊びの指導、音楽教材の制作・出版などでも幅広く活躍されている門山恭子先生による手遊びやおえかきうたの体験ができるコーナーがありました。ここでは60人以上の学生が楽しく和やかに手遊びの指導を受けていました。また11時からは入職2～3年目の先生方によるトークショーが行われ、ここにもたくさんの学生が集まりました。先生ならではの喜びや大変なこと、就職活動の経験談や就職試験の内容などの話に熱心に耳を傾けていました。



各ブースでは各園の情報、最寄り駅や園児数、仕事内容についてなど熱心な質問があり、熱気にあふれていました。中には企業、施設、保育園、幼稚園、どれを選ぶか迷っている学生もいて、できるだけ加盟園に関心を持っていただけるようにと心掛けた説明がなされていました。学生の中には北海道の函館や名古屋から参加した学生もいて、横浜市の園を知りたいと思う学生の関心の高さが伺えました。

今回のフェアが第2回目につながり、さらには各園への入職につながればと思いました。閉会の2時になってもまだ多くの学生が話を聞いていて、総勢250人の参加となりました。8月4日の第2回目のフェアへの期待でいっぱいです。



## 編集後記



新年度になって3か月。新入、進級した子どもたちはぐんと成長しました。覚えたり、貸し借りを学んだり、自分の立場に自信をもったり、みんな一緒にのびのびと遊びながら、どの子も気分がよさそうです。

さて、横浜市幼稚園協会も新年度がスタートし、平成30年度の課題にしっかり向きあっています。よいタイミングでより良い方向に進み、皆さんのお力になれますよう広報活動も頑張っていきます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

広報部長 浅沼 郁子